

令和7年度（2025年度）「学校評価」自己評価・学校関係者評価

長野県上伊那農業高等学校			ご意見	
学校教育目標	・生命に学ぶ実践的な学びをとおして、自分の人生を自らデザインできる生徒を育成する。 ・地域の方々と協働して地域の課題に取り組む探究的な活動をおとして、活力ある伊那谷をデザインすることにチャレンジできる生徒を育成する。		・学科改編後もコース制での生徒へのきめ細やかな指導を続けていただきたい。 ・専門高校のため大学に入ってから教養科目で苦勞することはあるが、そのために補習が実施され受講している生徒がいるのは素晴らしい。専門高校出身者が進学校出身者と共に学ぶことで相乗効果があるので期待している。 ・就職への意欲喚起等、早くから目を向けることが大切ではないか。	
重点目標 (中長期的目標) 今年度の目標	理念 『上農で、わたしと伊那谷をデザインする』 1. 生徒一人ひとりの人格を尊重して、いじめ・体罰のない安全・安心な学校づくりをめざす。 2. 育てたい生徒像を共有し、生徒一人ひとりに対して、個に応じた教育にあたる。 3. 生命に学ぶ実践的な学びをすすめて、豊かな人間性とグローバルな視点を持った生徒を育成する。 4. 基礎学力の充実と専門性の基礎・基本の修得、生徒の多様な進路実現に努める。 5. 地域社会と連携する機会を創りだし、そこでの課題に取り組む探究的な活動を進める。			
評価領域	評価項目	評価の観点	自己評価	ご意見
学校運営	職員の意思統一	生徒一人ひとりに対して、個に応じた教育にあたることができたか。	B	
	研修	校内または校外の授業や部活動などで、生徒が主体的に活動する様子を参観しようと思っけたか。	B	
	安全管理の取組	3年以内に、3時間の救命講習を受講したことがあるか。 ヒヤリハットの報告に取り組み、その対策・改善を進めたか。	A	
	組織運営	日々の活動や以前から行われている行事について、従前のままでよいのか検討したか。	B	
	情報提供	ホームページや新聞・通信により、学校活動を外に向けて情報提供ができたか。	B	
	保護者、地域住民等との連携	学校評議員会やPTAなどを通して、保護者・地域の声を聴くことができたか。	B	
	学校評価の改善	評価項目に沿った振り返りを行うことができたか。	B	
	保健管理の取組	授業やHRで、生徒の健康観察や相談などのケアが実施できたか。	B	
教育課程・学習指導	教育課程の充実	基礎学力の充実と専門性の基礎・基本の修得を目指した授業の計画・実施ができたか。	B	コースでの専門性や食文化などでの実践授業が充実していて ただ学科を学ぶのではなく色々な経験をさせてもらっているのがとても良いと感じる。
	授業の工夫・充実への取組	生徒の多様な進路実現を意識した授業改善に取り組むことができたか。	B	
	地域に学ぶ学習への取組	実際の事象や実物を重視した授業等の取り組みを行うことができたか。	B	農業体験、教育活動を通して学びを深め、仲間と協力して取り組む貴重な時間を過ごすことができ、本校へ進学して良かったと感じています。
	読書への取組	朝読書を推進したり、授業等で本を紹介したりして生徒が本に触れ親しむ機会を増やしたか。	B	
生徒指導	生徒が抱える指導上の問題点の掌握と事前指導	生徒個々の状況について把握するために、担任・教科担任・部活顧問など教員同士の連絡を密に行うことができたか。	B	子どもの思っていることも聞いて、そして、方向性を示していただいているのでありがたいです。
	道德教育の推進・いじめ防止の取組	授業やHR、特別活動の中で自他の人権や生命を尊重する態度を育むことができたか。	B	
	現状の課題の掌握と対策	「高校生活のてびき」をもとに全職員・生徒・保護者が共通の基盤で生活を整えることができたか。	B	
	交通事故の撲滅	交通事故防止に向けて、生徒・保護者へ呼びかけができたか。	B	
教育支援	生徒が学ぶ日常の状況把握	生徒の生活環境や日常の状況等について係を中心に共有し、必要に応じて生徒の支援会議等を持つことができたか。	B	学校が楽しいと言っています。課題や試験勉強が就て大変な時もあるようですが、楽しく学べているようです。受験から希望していたコースに入ることが出来たので、やりたい勉強へ進んで欲しいと思います。
	必要な知識・情報の提供	SC等外部機関とも連携する中で、教育相談、特別支援教育に必要な知識・情報を教職員に提供することができたか。	B	
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会の本年度スローガン「ONE TEAM～人事を尽くして天命を待つ～」を鑑みた諸活動を支援することができたか。	B	
	クラブ活動の活性化	生徒同士が協働して日々の練習や活動に取り組むように指導できたか。	B	
キャリア教育 (進路指導)	組織的なキャリア教育の体制づくり	基礎力診断テストや適性検査、学びの指標を実施し、それを活かした個人面談や指導を行うことができたか。	B	
	体系的な進路実現への取組	1年次で進路への考え方を学び、2年次で具体的目標と方向を考え、3年次で社会へ出るためのスキルアップと進路実現をさせることができたか。	B	
	勤労観・職業観の育成と地域社会、企業との連携	授業、HR、部活動などの日々の学校生活や就業体験・ワークリサーチのまとめを通して、自身が働くことや生き方について考えさせることができたか。	B	

A:十分(5.0～4.3)、B:おおむね十分(4.2～3.5)、C:普通(3.4～2.7)、D:やや不十分(2.6～1.9)、E:不十分(1.9～1.0)